

気分は「百万石の花嫁」 ひがし茶屋街での婚礼ブーム



紅殻格子の街並みを進む花嫁道中



町家での人前式

結婚指輪を披露する新郎新婦

ズームアップ

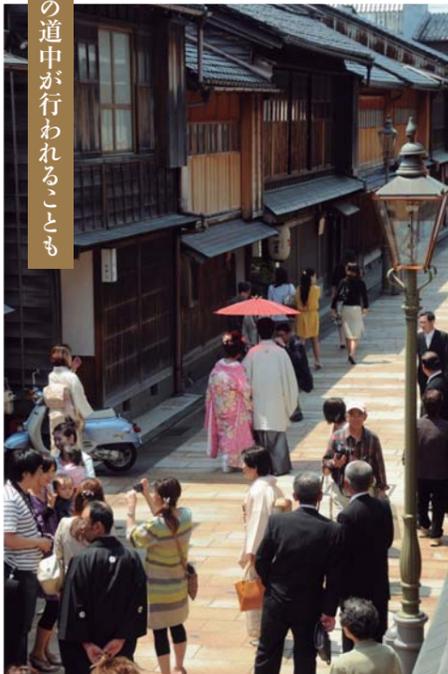
観光客のフラッシュと拍手を浴びる新婦の心は「百万石の花嫁」といったところか。五月晴れに恵まれた10日、金沢市のひがし茶屋街で行われた花嫁道中。加賀水引のブーケを手に、新郎に和傘を差し掛けられた新婦が石畳をしずしずと歩く。城下町の雅びやかな名所を舞台にした結婚式が今、県外カップルに受けている。

道中の主役の2人も千葉県出身。茶屋街を祝言の場を選んだのは「昨年初めてこの地を訪れ



観光客の視線を浴びながら
記念写真撮影

週末には複数の道中が行われることも



町家造りの料理屋で鏡開き



琴の演奏など

金沢の文化が随所に



外国人も

和風結婚式に興味津々

県外カップル続々 新婦あこがれの地

た時、その風情に心がときめいた」からだと言う。披露宴も茶屋街の一角にある築140年の町家造りの料理屋だった。招待客に寿せんべいを配り、両親への感謝の品は金箔工芸や九谷焼と、趣向もまさに加賀百万石尽くしだ。

金沢の伝統を随所に取り入れた式を昨年4月から手掛けるウエディングプロデュース「金澤syugen」（金沢市）では、これまで成約した約30組のうち広島、東京、神奈川県など県外在住者が6割を占める。費用は食事や演出、装花代などを含め30人規模で78万8000円と、ホテルより安く抑えているという。

ひがし茶屋街では前日の9日も同じ料理屋で地元カップルが式を挙げた。10日には、ほかの2組が時間差で花嫁道中を始める場面も見られた。「知人、親族ともども情緒を味わってもらうには茶屋街がぴったり」との声も。北陸新幹線の開業が迫る中、和風スタイルが似合う「歴史都市」金沢が婚礼の本場になる日は近いかもしれない。